

平成 27 年度 第 2 回園芸研究所主要課題現地検討会（ナシ）の開催

7月24日（金）に園芸研究所において、ナシの主要課題現地検討会を開催しました。当日は生産者（茨城県梨組合連合会会員）30名、JA及び普及指導員・行政等関係機関33名の全63名の出席があり、ナシ新品種「恵水」の栽培及び貯蔵技術と注目される新品種「はつまる」、「甘太」等の特性について、意見交換を行いました。出席者から多くの意見が寄せられ、今後のナシに関わる試験研究推進と普及における課題の解決に向けた有意義な検討会になりました。

1 試験研究の取り組み・進捗状況の紹介

- ・「恵水」に係わる課題として、高品質多収穫生産技術の開発、補植技術の開発、樹体ジョイント仕立ての適応性検討、貯蔵技術の確立について、研究進捗状況や期待される成果を紹介しました。
- ・また、（独）農研機構果樹研究所育成の新品種「はつまる」、「甘太（かんた）」等は、生産者の高い関心が寄せられていることから、品種特性の紹介を行いました。

2 ほ場検討

- ・「恵水」の高品質多収穫生産技術について、多収でも品質を低下させない生育条件の検討を行っている試験樹の結実状況や樹勢を見ながら、栽培上の留意点について意見交換を行いました。また、補植技術については、根底制限と熱水処理による幼木生育促進状況を紹介しました。ジョイント仕立てについては、今春に接木したジョイント箇所や新梢管理の様子をみながら、今後の栽培の留意点と慣行仕立てとの比較について意見交換を行いました。
- ・9年生樹となる新品種「はつまる」、「ほしあかり」、「凜夏（りんか）」、「甘太（かんた）」の生育の様子、樹勢や結実状況などを見ながら、特性や栽培上の留意点について意見交換を行いました。

3 総合討議

- ・専技を座長に「恵水」の推進、ブランド化についての意見交換を行いました。生産現場では「恵水」は栽培しやすい品種であるとの評価で、現地の推進事例として、県南農林経営・普及部門から石岡市フルーツプロジェクト（大玉果実の差別化販売）によるPR販売の紹介がありました。
- ・産地振興課からは、栽培マニュアルの策定、販促資材の作成、高品質安定生産・販売に向けた産地への期待など「恵水」のブランド化に向けた生産及び販売対策について説明がありました。また、販売流通課からは、「恵水」を茨城県産梨のPRにおける牽引役と位置付け、いばらきの秋梨キャンペーンを展開していくとの紹介がありました。
- ・全農いばらきからの意見として、「恵水」はVFを中心に当面はロットをまとめて販売したいこと、規格や資材の統一、貯蔵梨のギフト商材としての期待などが挙がりました。

今回の現地検討会の満足度アンケート結果では、参考になったとの回答は75%であり、テーマ別では、「恵水」の多収穫栽培、樹体ジョイント、新品種の特性について、高い関心が寄せられました。また、要望としては、「恵水」の販売面のデータや導入した生産者の声などをとりまとめてほしい、との意見がありました。今後も園芸研究所では、関係機関と連携を図り、産地や生産者の期待に応えられる課題解決と開発技術の普及を目指します。



ほ場検討（「恵水」の樹体ジョイントほ場）



室内検討（総合討議）